

令和6年度大河原教育事務所管内 公民館等巡回訪問実施報告



令和7年3月

宮城県大河原教育事務所

目 次

令和 6 年度大河原教育事務所管内公民館等巡回訪問実施要項	1
公民館等巡回訪問日程	2
公民館事業の視察	3
管内公民館等の特色ある事業紹介	5
公民館等巡回訪問を終えて	13
公民館運営評価シート集計表	20
公民館運営評価シート評価平均値	21
公民館運営評価シート「集計表」及び「評価平均値の結果」から	22
研修に関するアンケート結果	23
地域連携担当・社会教育関係職員等研修会 要項	25
大河原管内公民館等一覧	29

(資料)

各種事業等のチラシ紹介

令和6年度大河原教育事務所管内公民館等巡回訪問実施要項

宮城県大河原教育事務所

- 1 目的 「公共の福祉」に貢献し、学習・文化活動の拠点、地域社会のキーステーションとしての各市町の公民館等を訪問し、実態を把握することにより、管内の生涯学習・社会教育の振興、充実に寄与する。
- 2 内容 (1) 各市町公民館等の現状と課題についての情報収集
(2) 公民館等主催事業等についての実態把握と関係資料の収集
(3) 公民館等評価に関する情報の交換
(4) その他（地域学校協働活動の進捗状況等）
- 3 対象 大河原管内の公民館・センター等
（地区公民館・自治センター・まちづくりセンター等も訪問します）
- 4 訪問期間 10月～12月の訪問希望日（各市町と調整）
- 5 訪問期日の決定
教育事務所と各市町で訪問期日等の調整を行い、「公民館等訪問予定一覧」を作成し、当該市町教育委員会に通知する。
- 6 訪問者 大河原教育事務所 教育学事班 生涯学習担当 社会教育主事
- 7 訪問時間 訪問時間を1施設につき45分～60分を目安とし、訪問を計画する。
- 8 その他 (1) 基幹公民館（センター）を訪問対象としますが、地区公民館・まちづくりセンター・自治センター等もできるだけ訪問したいと思います。
(2) 教育事務所の事業等実施日を除いた訪問可能日をもとに、所定の様式により希望訪問日を事務所に報告願います。後日、時間調整を行います。
なお、日程によっては土日の主催事業開催時の訪問視察も可能ですので、希望される場合は、別途御相談ください。
(3) 訪問については、該当市町の社会教育関係職員の同行をお願いします。
(4) 事業内容等が分かるリーフレット、チラシ等の資料を提供願います。
なお、訪問のための新しい資料を作成する必要はありません。

令和6年度大河原教育事務所管内 公民館等訪問日一覧

	月 日	曜	訪問市町	訪問先公民館等	訪問予定時刻等
1	10月5日	土	七ヶ宿町	七ヶ宿町高齢者センター	9:30～11:30 「成人講座 七ヶ宿の秋を楽しもう」
2	10月22日	火	蔵王町	蔵王町公民館 (ございんホール)	14:00～
3	10月23日	水	角田市	角田市市民センター	9:30～11:30 「伝承 わたしのつるし飾りづくり」
4	11月7日	木	柴田町	槻木生涯学習センター 船迫生涯学習センター 船岡生涯学習センター	13:30～ 14:30～ 15:30～
5	11月13日	水	村田町	村田町中央公民館	14:00～
6	11月19日	火	川崎町	川崎町公民館	10:30～
7	11月20日	水	白石市	白川公民館 中央公民館 小原公民館 福岡公民館 深谷公民館	10:00～ 11:00～ 13:30～ 14:30～ 15:30～
8	11月22日	金	丸森町	小斎まちづくりセンター	10:30～
9	11月25日	月	大河原町	中央公民館 金ヶ瀬公民館	10:00～ 11:00～

公民館事業にうかがいました!

角田市生涯学習講座

「伝承 わたしのつるし飾りづくり

鯉のぼりとあやめ【全4回】」



講師に手芸サークル「さくらの会」の皆様をお迎えして、つるし飾りで人気の鯉のぼり、あやめ、かぶとを作りました。参加者が好みの布を使って作るオリジナルのつるし飾りはすばらしい出来栄え！作品は「かくだ牟宇姫ひなまつり」の期間中、市民センターに展示されます。

公民館事業にうかがいました!

七ヶ宿町公民館事業(成人講座) 「七ヶ宿の秋を楽しもう～草木染め体験～」



講師は、草木染・とし子工房の大泉三保氏。今回は栗の「いが」を使ってシルク生地に染色します。



染める部分と生地の色合いを残す部分を考えて染色。参加者同士が協力して、楽しく語らいながら作業を進めていました。できあがったすてきな作品は、七ヶ宿町の「ふるさと祭り」で展示され、多くの方々にいただきました。

管内公民館等の特色ある事業紹介

事業名	わんぱく教室		
市町名	白石市	開催場所	白石市中央公民館 他
実施期日	6月～12月(6回)		
【主な内容】			
○趣 旨	体験学習などを通じて、青少年の健全育成を図るとともに、個々の創造性や集団での協調性、自主性を養い、生活力を身に付ける。		
○対 象	市内の小学5年生、6年生(30名)		
○内 容	開校式、ジュニア・リーダーと遊ぼう、わんぱく宇宙教室、わんぱく大冒険キャンプ、わんぱく農業・食育教室、わんぱく考古学教室、わんぱくクリスマス会、閉校式		

事業名	ヨーガ教室		
市町名	白石市	開催場所	白石市中央公民館
実施期日	小学生対象、中高生対象：8月6日(火) 大人対象：5月～2月(10回)		
【主な内容】			
○趣 旨：ヨーガで心身共にリフレッシュしながら、受講生相互の親睦を図る。			
○対 象：市内の小学生(親子含めて)20組、中学生・高校生 市民 20組			
○内 容：ヨーガの実技			

事業名	子育て応援ブックカフェ		
市町名	白石市	開催場所	白石市中央公民館
実施期日	5月～2月(9月を除く計9回)		
【主な内容】			
○趣旨：子育て世代の保護者を対象に、子育てから少し離れ、自分を見つめ直す時間を作ることで、心に余裕をもった子育てにつなげる。			
○対象：定員なし(託児あり)			
○内容：ブックトーク、ハッピーカフェタイム			

事業名	深谷地区レクリエーション大会		
市町名	白石市	開催場所	白石市立深谷小学校 体育館
実施期日	11月24日(日)		
【主な内容】			
○趣 旨	地区民合同運動会の代替事業として開催。誰でも参加できる種目を設定し、未就学児を含む多世代の地区住民が体を動かしてリフレッシュする。		
○対 象	地区住民		
○内 容	未就学児種目、輪投げ、パン食い競争、ディスクッター(的あて)、玉入れ(子供の部・大人の部)		

事業名	小原たいけん教室		
市町名	白石市	開催場所	白石市小原公民館
実施期日	6月30日(日)、8月4日(日)、12月15日(日)		
【主な内容】			
○趣 旨：小原公民館、小原小学校区子ども会育成会、小原地区民生児童委員協議会が連携・協働して、小原小学校に所属している児童生徒を対象とした体験活動を企画・運営する。			
○対 象：小原小学校の児童			
○内 容：開講式・ゲーム(ジュニア・リーダーが指導)、夏休みお楽しみ会(スイカ割り、流しうーめん等：ジュニア・リーダーが指導)、クリスマス会、閉講式			

事業名	ふくおかわくわくカレッジ		
市町名	白石市	開催場所	白石市福岡公民館 他
実施期日	6月3日(月)、7月17日(水)、9月11日(水)、10月8日(火) 12月、12月26日(木)、1月 (計7回)		
【主な内容】			
○趣 旨	生涯学習の一環として、「だれでも参加できる講座」を企画し、参加者が教養と親睦を深めつつ、心も体も健康になることを目的に開催する。		
○対 象	地区住民		
○内 容	陶芸教室、健康料理講習会、移動研修会、ガラスアート、こんにゃく作り、フラワーアレンジメント、味噌作り		

事業名	かくだ環境学(生涯学習講座) ①チラシ de かご(全3回) ②心地よく楽しい暮らし方～重曹バスボムづくり～ ③こころとからだを癒す温泉のはなし		
市町名	角田市	開催場所	角田市市民センター
実施期日	①7月4日(木)、7月11日(木)、7月18日(木) ②7月30日(火) ③3月7日(木)		
【主な内容】 ○趣 旨：行政と市民が協力し、市民一人ひとり生涯にわたって潤いと生きがいを持って充実した生活を営むことができるように、市民の学習欲求に応え、学ぶ機会を提供する。 ○対 象：市民 ○内 容：①不要になったチラシを材料として、eco な暮らしを体験する。 ②自然素材で環境にやさしいバスボム(入浴剤)作りをとおして、環境に配慮した暮らし方を学ぶ。 ③温泉の効能を学び、普段の生活に気軽に取り入れられる環境活動について学ぶ。			

事業名	楽しくヴォイストレーニング		
市町名	角田市	開催場所	角田市市民センター
実施期日	8月8日(木)、8月22日(木)、8月29日(木) 9月5日(木)、9月12日(木)		
【主な内容】			
○趣 旨	行政と市民が協力し、市民一人ひとり生涯にわたって潤いと生きがいを持って充実した生活を営むことができるように、市民の学習欲求に応え、学ぶ機会を提供する。		
○対 象	市民		
○内 容	正しい発声法・呼吸法を学び、耳になじみのある楽曲を教材に、無理なく楽しく歌ったり合唱したりする。 (最後は田園ホールでの発表会を実施)		

事業名	癒しをもとめて～蔵王の穴場ツアー～		
市町名	蔵王町	開催場所	蔵王町ふるさと文化会館
実施期日	9月8日(日) *企画等：①7月20日(土) ②8月9日(金) ③8月31日(土)		
【主な内容】			
○趣 旨	住民等10名程度を募集し、公民館事業として「みんなで作ろう！蔵王の穴場ツアー」を実施。町内を視察したり、ツアープランを企画したりした後、住民等を対象とした穴場ツアーを開催する。		
○対 象	蔵王町にお住まいの方、蔵王町に通勤または通学されている方		
○内 容	町民だけが知っている!? 蔵王の隠れた魅力を体感できる穴場ツアーを開催。企画した住民のイチ押しスポットを参加者と共に楽しむ。		

事業名	科学実験教室		
市町名	蔵王町	開催場所	蔵王町ふるさと文化会館
実施期日	8月4日(日)		
【主な内容】			
○趣 旨：「松川岩石鉱物研究会」でつながりを得た白石高等学校の先生を講師に迎え、科学部の高校生も支援にあたりながら、町内の児童生徒に科学の面白さや学ぶ魅力を体感させる。			
○対 象：蔵王町内の小学4年生から中学3年生まで			
○内 容：様々な色で炎が燃える「炎色反応」や空気の流れが分かる「空気砲」など、夏休みの自由研究にも活用できる楽しく、勉強になる実験を行う。			

事業名	円田地区むかし遊びフェスティバル		
市町名	蔵王町	開催場所	蔵王町立円田小学校 体育館
実施期日	6月9日(日)		
【主な内容】			
○趣 旨	地区の公民館部員が講師となり、竹馬づくりやメンコ遊び、けん玉などのむかし遊びに親しむ事業を開催する。		
○対 象	円田地区の小中学生 30名程度		
○内 容	コマ、けん玉、メンコ、かるた、竹馬、缶ぽっくり 全部を回るとプレゼントがもらえる。		

事業名	おやこ工作教室～手形足形で作るオリジナルキーホルダー～		
市町名	七ヶ宿町	開催場所	七ヶ宿町活性化センター
実施期日	10月6日(日)		
【主な内容】			
○趣 旨	健康福祉課の主催事業に公民館が共催する形態で実施。移住者が増加している環境を踏まえ、保護者間の交流を支援することで、住民相互の関係性を構築する目的で実施する。		
○対 象	就学前の乳幼児を子育て中の親子		
○内 容	我が子の手形や足形を取り、好きなチャームを選んで自分だけのかわいらしいオリジナルキーホルダーを作る。		

事業名	レザーの「名刺入れ」づくり(成人講座)		
市町名	七ヶ宿町	開催場所	七ヶ宿町開発センター
実施期日	①4月24日(水) ②5月8日(水)		
【主な内容】			
○趣 旨：レザークラフトの基礎を学び、上品な光沢がある栃木レザーを用いたオリジナルのレザーの名刺入れを作りながら、学びを深めたり地域住民同士の交流を深めたりする。			
○対 象：町内在住または在勤の成人の方(両日参加可能な方)			
○内 容：レザーのオリジナル名刺入れづくり			

事業名	リズムダンス教室(子供向け事業)		
市町名	大河原町	開催場所	大河原町中央公民館
実施期日	9月7日(土)		
【主な内容】			
○趣 旨：未就学から小学生(3年生)までの子供たちを対象に、運動が苦手であっても楽しく運動ができるような、簡単なリズムダンスを体験する。			
○対 象：4歳から小学3年生までの子供たち			
○内 容：リズムダンス(ヒップホップ)			

事業名	コーヒー講座		
市町名	大河原町	開催場所	大河原町中央公民館
実施期日	8月7日(水)、11月7日(木)		
【主な内容】			
○趣 旨	身近な飲み物であるコーヒーに関する知識や雑学を学び、美味しいコーヒーの淹れ方について体験を通して学ぶ。		
○対 象	町民		
○内 容	8月：アイスコーヒー、11月：ホットコーヒー、いずれも費用として600円(材料費＋お菓子代)		

事業名	痛みを予防する体づくり教室		
市町名	大河原町	開催場所	大河原町金ヶ瀬公民館
実施期日	5月～6月、10月(3回)		
【主な内容】			
○趣旨	肩こりや腰痛、膝痛などの痛みを予防するために、ストレッチや体の動かし方を通じた体づくりを学ぶ。		
○対象	地域住民		
○内容	ストレッチ		

事業名	発見合宿		
市町名	村田町	開催場所	村田町中央公民館
実施期日	隔月 1 回の予定 (①9 月 13 日(金)～14 日、②11 月 22 日(金)～23 日(土)) *3 回目以降は未定		
【主な内容】			
○趣 旨：町内の子供たちが自由に集い合う宿泊体験をとおして、触れ合える機会をつくり、新たな出会いや楽しみを自ら「発見」していく中で、豊かな心を育てる。			
○対 象：町内小学生			
○内 容：19 時から次の日の 7 時 30 分まで、公民館に宿泊しながら友達とおしゃべり等自由に過ごさせる。ゲームやスマートフォンは禁止。参加している子供たち同士がかかわり合うことで普段の生活とは異なる気付きや学びを発見し、主体的かつ協調して解決するようになる。			

事業名	四季の里山ハイキング		
市町名	柴田町	開催場所	槻木生涯学習センター、地域の里山
実施期日	全 8 回：4 月 4 日(木)、5 月 18 日(土)、6 月 15 日(土)、 9 月 14 日(土)、10 月 19 日(土)、11 月 16 日(土) 12 月 14 日(土)、1 月 18 日(土)		
【主な内容】			
○趣 旨：四季の里山を歩いて、自然の豊かさを満喫するとともに、地域の文化・歴史に触れ、郷土愛を育む。			
○対 象：町民(各 30 名)			
○内 容：「葦神・館山コース」「深山コース」「鎧摺山コース」「葦神・羽山コース」「猪倉山コース」「愛宕山コース」「館山コース」等、各回コースを変えてハイキングを実施。（「里山案内人の会」主催の実施も含む）			

事業名	リンパストレッチ教室(成人教育)		
市町名	柴田町	開催場所	船迫公民館
実施期日	全 8 回：6 月 27 日(木)、7 月 11 日(木)、7 月 25 日(木)、 8 月 8 日(木)、8 月 22 日(木)、9 月 12 日(木)、 10 月 10 日(木)、10 月 24 日(木)		
【主な内容】			
○趣 旨：心身の健康増進を図りながら元気で地域活動が続けていけるよう、健康管理などについて学習しながら地域の人との交流を広げることを目的に開催する。			
○対 象：町民(成人 20 名)			
○内 容：リンパストレッチの基礎			

事業名	親子でクッキング(家庭教育振興)		
市町名	柴田町	開催場所	船岡生涯学習センター
実施期日	11 月 16 日(土)		
【主な内容】			
○趣 旨	子供たちが食材についての知識や調理に関する基本を学び、親子で普段の食生活について共に考え見直す機会とする。また、親子の絆を深めながら調理体験を楽しむもの。		
○対 象	町民(親子 6 組)		
○内 容	フライパンでできる簡単パン		

事業名	大人のそば打ち教室		
市町名	川崎町	開催場所	川崎町公民館
実施期日	12月18日（月）、12月19日（火）		
【主な内容】			
○趣 旨：余暇の有効利用と趣味の拡大を目指し、川崎産のそば粉を使用してそば打ちの基本を学んだり、自分で打ったそばを味わったりしながら、受講者の親睦と交流を図る。			
○対 象：町内在住の方			
○内 容：そば打ちの体験			

事業名	奉射祭(やぶさめ)を核とした交流イベント		
市町名	丸森町	開催場所	丸森町小斎まちづくりセンター 他
実施期日	通年		
【主な内容】			
○趣 旨：地域の伝統行事である「小斎奉射祭」のPR、地域活性化のための交流イベントを開催し、災害からの復興を図る。			
○対 象：一般(地区内外を問わず)			
○内 容：小斎地区に伝承される馬に乗らずに矢を射る「奉射祭(やぶさめ)」を行い、一年の天候を占い、五穀豊穡と地区の安全を祈願する。			

公民館訪問を終えて

昨年、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類へと移行されたことを契機に、それまで制限されてきた住民が集い、交流する機会が少しずつ増えてきました。今年に入りその動きはよりはっきりと顕在化し、流行や感染に十分配慮しながら様々な学びが公民館などの施設を活用して再開されました。それぞれの地域で特色ある講座が開設され、多くの住民が集まったり、各種サークル活動が再開されたりと、コロナ禍前の姿を取り戻しつつあります。地域住民にとって気軽に集まり、互いに学び合うことで人と人とがつながる拠点として、公民館は大切な施設であることが、改めて住民に認知された年になったのではないかと感じます。併せて、活発な公民館での活動をとおして地域づくりや地域活動の活力の高まりもより強く実感することができました。公民館訪問にお力添えをいただきました皆様に心より御礼申し上げます。

さて、令和6年6月25日、盛山正仁文部科学大臣（当時）は中央教育審議会に「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」を諮問し、現在、協議・検討が行われています。諮問理由の中に「社会教育活動の推進方策について」の記載があり、「社会教育活動の充実方策」や「社会教育施設の機能強化」の方策として次の5つの事項を提示し、具体的な検討を求めています。

- ①地域と学校の連携・協働の更なる推進方策
- ②公民館、図書館、博物館等における社会教育活動の推進方策
- ③青少年教育施設等における青少年体験活動の推進方策
- ④地域コミュニティに関する首長部局の施策や多様な主体が担う活動との連携・振興方策
- ⑤共生社会の実現に向けた障害者・外国人等を含めた社会教育の推進方策

2つ目の「公民館、図書館、博物館等における社会教育活動の推進方策」では、「地域コミュニティの維持・活性化に資する公民館の在り方」と、「デジタル技術の活用も含めた公民館、図書館、博物館等における社会教育活動の充実と水準向上」という2つの観点を例示して検討を求めています。これらの検討事項は、

令和5年6月16日に閣議決定された第4期教育振興基本計画の基本方針・コンセプトである「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に基づき明示された5つの基本的な方針を踏まえたものです。

令和6年6月に中央教育審議会生涯学習分科会が提示した「第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開；リカレント教育の推進と社会教育人材の養成・活躍のあり方～」でも、今後の生涯学習・社会教育の振興方策として公民館等の社会教育施設の機能強化、デジタル社会への対応についてまとめられています。その中で、社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成として、「社会教育による『学び』を通じて人々の『つながり』や『かかわり』を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくこと」が重要であり、「こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる」とされています。このような「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環はまさに公民館がこれまで継続的に働きかけてきた取組であり、今後はさらに住民の自主的・主体的な地域づくりへの参画を促す工夫や機能強化が、より公民館に求められるようになることを示しています。

そこでここからは、特に今回の訪問で見られた「地域コミュニティの維持・活性化に資する公民館の在り方」につながる取組を紹介させていただきます。今後の事業企画・運営等の参考になれば幸いです。

○ 白石市の福岡公民館は、住民数や世帯数も多く、年間を通じて様々な事業が展開されています。以前はどの地域の公民館でも行われていた球技大会ですが、人口減少や高齢化の影響で、現在は多くの公民館でその実施形態を変えたり中止したりしている事業です。福岡公民館では従来どおりの「家庭バレーボール」や「ソフトボール」が行われていることから、地区住民の良好な健康状態やエネルギーが感じられます。

そのような地区でも、従来から行われていた「地区民運動会」の内容やあり方を変更し、実行委員会を組織してより多くの住民が参加しやすくする方策を考えて運営されたのが「福岡レクリンピック大会」です。

レクリエーションとオリンピック・パラリンピックとを掛け合わせたネーミングの秀逸さもすばらしいのですが、何より競技内容のユニークさも目を見張ります。地区内にある白石市立北保育園の園児による「マスゲーム『うーめん体操』」から始まり、大人の部と子供の部に分かれた「パン食い競走」へと続きます。シールがついたパンには景品も付くそうで、大人も子供も笑顔で参加

していた様子が伺えます。また、フリー参加ができる「運だめし」では、20 秒の制限時間内に二択問題を解き、最後の 10 名になるまで続けます。参加者全員で和気あいあいと取り組む様子が目に浮かびます。

このような参加への心理的ハードルを下げる取組だけでなく、従来の自治会のつながり強化を意図した内容も組み込まれていることが特徴です。ボールを入れたバケツを手渡しで運ぶ「バケツリレー」、年代によって投球位置を変えてパネルの数字を抜く「的あて」など、自治会ごとの種目においても楽しみながら自治会内の関係性を醸成する仕掛けが組み込まれています。少人数でも参加できること、事前の練習があまり必要ないことも種目設定の要素として考えられていたようです。最後の種目に「綱引き」を設定し、他の競技とは異なり力強さや勝敗をかけた全力で取り組む内容を組み込んでいることも、地域住民のニーズをよく把握できている表れだと感じました。

また、この事業会場は、白石市立福岡中学校の体育館を使用しています。学校側の全面協力のもと、体育館の使用に際し、部活動や外部団体等との調整をしていただいているとのことでした。雨天時を心配せずに実施できることは公民館や実行委員会にとって大きなメリットです。それだけでなく、役員として福岡中学校の生徒がボランティアに入り、地域の大人と一緒に運営面を支えていました。

学校や児童生徒とのつながりづくりは他の事業でも行われています。「公民館まつり」では、園児や小中学生、児童クラブの子供たちの作品を展示することも行われ、子供たちや保護者とのつながりの強化も意図的に行われています。また、公民館に足を運ぶことで、他の世代の作品に触れたり、発表を鑑賞したりすることも可能となり、多世代のつながりやかかわりが生まれることにもなっています。

さらに、従前の「婦人学級」を見直し、婦人という限定を外して男性でも参加しやすくなるようにした「ふくおかわくわくカレッジ」は、今では多くの住民が参加する人気の講座になっています。社会的・現実的な課題はあるものの、どのようにしたら地域住民にとって有益な学びになるか、どのように工夫したら住民同士の関係性はより良好になるかといった意識や意図を運営側がもち、実行委員会等の住民と共に考えたり取り組んだりする公民館の姿を強く感じました。このような働き掛けを継続させることで、住民相互の協力し合える関係性がより醸成され、地域コミュニティの維持や活性化につながっていくのではないかと思います。福岡公民館での取組は、多くの公民館において参考になる取組例だと感じました。

○ 蔵王町公民館(教育委員会生涯学習課)では、宮城県教育委員会と共催で、一昨年度に「みやぎ県民大学推進事業『地域力向上講座』」を、昨年度はそのフォローアップ講座を開催しました。この事業は、地域の課題を地域住民が見出し、講師や職員の支援を受けながら課題解決のアプローチを学んでいく講座です。蔵王町の取組では、蔵王の魅力を再発見し、蔵王町をもっと好きになるアイテムとして「蔵王町カード」を作りました。このカードは全国的に有名な蔵王の魅力だけでなく、町民だから知っているものや町民だから見落としてしまうものにもスポットを当て、地域の方々が見つけた町の知られざる魅力をカード化したものです。写真やジャンル、レア度やディープ度、お勧めのポイントや地図のQRコードがまとめられたカードで、遊び方も提示されています。

今年度、蔵王町公民館では、「みんなで作ろう！ 蔵王の穴場ツアー」という講座を開設しました。募集定員は10名。蔵王町の魅力がたくさん詰まっている「蔵王町カード」を有効活用して、受講者が町の魅力的なモノやスポットをツアーという形でPRすることを目指した4回シリーズの企画です。

1回目は、「ワタシのイチオシ～円田・平沢バージョン～」と題して、「蔵王町カード」の情報を基に、担当者が円田地区や平沢地区の穴場スポットを味わえるツアーを企画しました。参加者には体験をとおしてツアー企画のノウハウを学んでもらいたいという担当者の意図でした。

2回目は、「蔵王町カード」の情報を活用したツアーを参加者が企画、3回目にはそのツアーを下見して内容等をブラッシュアップします。講師には地区公民館の館長や地元の方などを依頼することで、参加者からの様々な質問にも的確に答えることができました。講師の皆様は日頃から地域のことを考え、様々な取組を主体的に実践されている方々とのことでしたので、地域に関心がある参加者とかかわることで、互いの意欲を喚起し合うような相乗効果が生まれたことでしょう。

最終の4回目は、参加者が企画した「癒しをもとめて～蔵王の穴場ツアー～」を開催しました。参加者が地域の方や行政等、様々な方とかかわり、つながることで実現したツアーの開催をとおして、講座を受講した参加者は蔵王町への愛着を深め、蔵王町の魅力を自分の言葉で伝える力を高めました。

地域コミュニティの維持や活性化には、その地域で生活する住民の皆様が地域への関心を高め、主体的に地域の現状や魅力を知ったり、課題の解決方法を学んだりすることが必要です。そのような学習材を地域から発掘し、住民に対してどのように提示するか、住民の関心をどのように引き出すかについて、様々な工夫をしながら学びの場を提供することが公民館の重要な機能です。しかし、住民側が一方的に学びを享受するだけの場の設定では、学び終えた後に地域へ主体的にアプローチするまで意欲を高めることは難しいのが現実です。

地域コミュニティの維持や活性化が公民館に求められている現在では、学びの場を用意するだけでなく、地域住民と共に学びをプロデュースするような仕掛けと、その学びが継続的に行われるように職員が伴走する支援体制が公民館講座や事業の運営にますます必要になってきていると感じます。

「蔵王町カード」を活用したツアー企画講座は、受講者が主体的に地域の魅力をPRするためのアイデアを出し合ったり、魅力を再発見するための働きかけを自主的に行いたくなったりするような仕掛けが組み込まれています。また、自分たちの企画内容を高めるために、必然的に地域で活動している様々な人とつながる機会が創出され、その人たちとかかわり、つながることでさらに学ぶ意欲が喚起されるといったスパイラルな学びが展開できるようになっています。講座を受講した方々は、ツアーの実現を喜びつつも、きっとさらに深く地域を知ろう、学ぼうという意欲が高まっていることでしょう。その意欲が新たな人をつなぎ、その繰り返しによって地域コミュニティが維持・活性化されるのだと思います。蔵王町公民館での取組は、公民館の働きかけによって地域コミュニティを維持・活性化するための具体例として、大いに参考になる事例であると感じました。

- セツネ宿町公民館は、現在、館長と社会教育主事の2名体制で運営にあたっています。他地域の公民館同様、人員や予算に関して潤沢な状況ではなく、様々な工夫をしながら住民のニーズに即した事業の展開を行っています。

月に1回のペースで開催を計画している公民館講座では、対象者を「成人」「高齢者」「子供向け」と意図的に限定することで、目的やゴールイメージをより明確に設定されていました。町の特徴として移住者がとても多い現状を踏まえ、移住された方と以前から生活している住民との関係性や、移住者同士の関係性を構築できるような仕掛けを考え、講座の企画や運営を行っています。

また、学び手の意識やニーズを把握するために、各種講座の終了後には詳細なアンケートを取っています。運営側が意図した成果が住民に得られているか把握するだけでなく、今後の講座開設に向けたヒントも得られるアンケートを大事にしていました。

そのような過程を経て実施されたのが「成人講座 草木染め体験」です。これまでは移住された方を含め地域の方を講師に迎え、レザークラフトやドライフラワーを用いたスワッグ・リースづくりといった講座を開設していました。これらの講座も多様な住民から大いに評価され、学びや交流の機会創出に十分寄与した内容でした。これらの講座を受講した住民に対して行ったアンケート調査からニーズを把握し、実現したのが今回の草木染めの講座でした。

町の豊かな自然環境を生かすことで、改めて地域の魅力を見つけたり味わっ

たりすることができました。今回は栗のいがを煮出してストールに染色するという体験でした。身近な生活環境にある栗のいがで草木染めができるという新鮮な驚きや、それならば地域の他の素材でもできるだろうかといった知的好奇心をくすぐるような題材でした。

ニーズをしっかりと把握した講座だったので、幅広い年齢層からの参加がありました。自然環境やそれを生かした暮らしをしている方、またはそのような暮らしを望む方なども集まりました。草木染めの体験をしながら自然に会話が生まれ、互いの心の距離感が縮まっていくのを感じました。参加者の中には移住された方も多かったのですが、一口で「移住者」といっても年齢層も様々です。また、移住後の年数や地域とのかかわり方も一様ではありません。相手のことは知っていても、移住された方だと知らなかったということもありました。自然な形で生まれた交流をとおして、新たなつながりが芽生えていました。

このような交流が生まれることは、公民館の担当者が意図している成果の一つでした。講座で知り合った住民は、受講をとおして仲良くなったり、互いの連絡先を交換したりすることもあるそうです。そのつながりが生まれた土台には、共通する好みや楽しさの共有というものがあるので、心の距離感はぐっと縮まります。つながりの土台となるものが地域の魅力となりうる素材である点も秀逸です。多様な住民を地域の魅力でつなぐ公民館講座を実現させるには、様々な機会を通じて住民の学びのニーズを把握したり、地域の魅力的な素材や住民を日頃から発掘しようとしたりする公民館職員の意識と行動力が欠かせません。

七ヶ宿町の公民館の皆様は、地域住民から日常的に気軽に声を掛けてもらえる存在です。地域コミュニティの維持・活性化に資する公民館となるためには、地域の住民からその役割を期待され、信頼を得るだけの存在になることが必須です。公民館が講座を開設するときに、受講者たる住民がどのような学びを欲しているのかといったニーズを的確に把握し、その学びが実現するためにどのような地域の魅力と掛け合わせることができるかを日頃から考えておくことが大切です。また、学びの場に人が集い、学びをとおして受講者同士だけでなく他の地域住民との関係性を構築できるような仕掛けも必要になります。住民に必要とされる学びが実現した時、その機会や場を用意してもらった相手に対して信頼や親しみが生まれます。信頼や親しみをもった相手からの言葉や評価は、よりの確な住民の学びの場づくりに生かされ、さらに互いの信頼感が高まります。このような信頼性構築の相乗効果によって住民と行政が共に地域コミュニティを維持しよう、より良くしようという働きかけのパートナーとなるのだと思います。七ヶ宿町公民館での取組をとおして、改めて公民館職員の意識や意図、コーディネート力や信頼感の大切さを学ばせていただきました。

これら 3 つの事例から、地域コミュニティの維持・活性化に資する公民館の在り方には、次の 3 点が大切なのではないかと考えます。

- ①従来の学びの在り方を見直し、住民のニーズや地域の現状、課題解決に資する内容へとブラッシュアップし、その内容を実現させるために地域住民や学校等、様々な立場の方々との連携・協働体制をじっくり構築する。
- ②各種講座を実践する際に、住民を学びの受け手・享受するだけの立場に留めるのではなく、多様な人との出会いやつながりを用意しながら、住民自身が地域コミュニティの維持・活性化につながる行動を主体的にできるような仕掛けや伴走をする。
- ③講座内容や運営を改善することで得られる学びの質の高まりを最大限住民に還元させるために、日頃から事業の振り返りや住民からの評価に真摯に向き合ったり、地域の魅力たる人やモノと積極的に出会ったりしながら、主体的に住民との信頼関係を構築する。

この 3 点のみで地域コミュニティの維持・活性化に資する公民館となるわけでは決してありません。また、これ以外の働きかけの方が効果的なこともあると思います。あくまでも一つの考察と御理解いただければ幸いです。

また、ここで紹介いたしました事例以外にも、各公民館等で行われている様々な事業は、住民の学びや人づくり、地域づくりに大いに寄与するすばらしい取組でした。引き続き、住民の思いや時代のニーズに応じた様々な取組が展開されるとともに、地域社会や施設が有する課題等への対応にも、ぜひできるところから挑戦していただければ幸いです。併せて、社会教育事業や施設における DX 化の推進にも、可能な範囲内でできるところから進めていただきたいと思います。当事務所といたしましても、各施設の職員の皆様、行政担当の皆様と力を合わせ、少しでも管内の生涯学習・社会教育の充実に努めます。

最後になりますが、各公民館長・センター長をはじめ職員の皆様方には、資料やアンケートを作成いただくとともに、貴重なお話を聞かせていただきました。管内市町教育委員会教育長様、生涯学習主管課長様、生涯学習課職員の皆様方の御理解と御協力に対しまして深く感謝申し上げます。

公民館運営評価シート集計表

■趣旨

・公民館運営評価シートにより、公民館運営に関する、目標・事業・組織・事務等の項目で自己評価することで、各公民館の実態や職員の意識を把握し、管内全体の現状と課題を把握するために実施した。

■調査対象及び調査方法等について

- ・調査対象 管内公民館・生涯学習センター等
- ・調査方法「公民館運営評価シート」の各項目について、各施設長・職員が1～4の評価基準により自己評価を行う。
- ・調査期間 令和6年10月5日～令和6年11月25日 ・有効回答数（N）＝83

《評価基準》4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：改善が必要である。

	項 目	評 価 の 観 点	4	3	2	1	計
目 標	目標①	公民館全体運営の目標は、地域の実態や課題に対応して立てられている。	24	55	4	0	83
	目標②	公民館全体運営の目標は、地域住民に理解されている。	12	48	21	2	83
	目標③	公民館全体運営の目標は、公民館職員に周知・徹底されている。	29	46	8	0	83
	計 画	公民館の目標を具現するために、年間計画が立てられている。	41	36	6	0	83
事 業 の 実 施	事業展開①	公民館事業を展開するとき、地域の実態や課題等を把握する方策がとられている。	14	50	18	1	83
	事業展開②	公民館事業は、地域住民の願いやニーズに対応している。	12	55	16	0	83
	事業展開③	公民館事業を展開する際、ねらいを明確にし、その充実が図られている。	20	46	17	0	83
	事業展開④	学級・講座をサークル化につなげる学習プログラムの開発に努めている。	13	37	28	5	83
	事業展開⑤	子育て・家庭教育について学習する機会の提供を図っている。	13	47	19	4	83
	連携・協力	関係団体及び諸機関等との協力体制を構築し、十分に連携が図られている。	24	50	9	0	83
	情報の提供	公民館活動の情報を多様なツールを活用し地域住民に提供している。（HP、広報誌の工夫）	16	49	14	4	83
組 織 ・ 運 営 ・ 事 務	組 織	職員相互の連絡調整がよくなされ、協力し合い、責任を持って職務を遂行している。	34	38	11	0	83
	研 修	自ら資質・能力を高めるための研修の必要性を自覚し、研究・研修に意欲的に取り組んでいる。	14	43	24	2	83
	会 議	各種会合の企画・運営は適切に行われている。	32	39	12	0	83
	予 算	公民館運営のために職員間の共通認識のもとで、予算編成や執行にあたっている。	36	40	7	0	83
	施設・設備①	教育委員会との連携を密にし、施設・設備の適切な整備と計画的な物品等の購入に努めている。	24	48	10	1	83
	施設・設備②	住民がいつでも気軽に集まれるスペースの確保、ロビー等の各種展示の工夫に努めている。	27	47	8	1	83
	事 務	文書の收受・発送・保管は適切である。	40	39	3	1	83

公民館運営アンケート・評価平均値

■趣旨

・公民館運営評価シートにより、公民館運営に関する、目標・事業・組織・事務等の項目で自己評価することで、各公民館の実態や職員の意識を把握し、管内全体の現状と課題を把握するために実施した。

■調査対象及び調査方法等について

- ・調査対象 管内公民館・生涯学習センター等
- ・調査方法「公民館運営評価シート」の各項目について、各施設長・職員が1～4の評価基準により自己評価を行う。
- ・調査期間 令和6年10月5日～令和6年11月25日 ・有効回答数（N）＝83

《評価基準》4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：改善が必要である。

※下線の値は前年度から数値が0.3以上変化した設問

	項 目	評 価 の 観 点	R01	R02	R03	R04	R05	R06
事業の実施	目標①	公民館全体運営の目標は、地域の実態や課題に対応して立てられている。	3.3	3.3	3.3	3.2	3.4	3.2
	目標②	公民館全体運営の目標は、地域住民に理解されている。	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
	目標③	公民館全体運営の目標は、公民館職員に周知・徹底されている。	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3
	計 画	公民館の目標を具現するために、年間計画が立てられている。	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4
事業の実施	事業展開①	公民館事業を展開するとき、地域の実態や課題等を把握する方策がとられている。	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	2.9
	事業展開②	公民館事業は、地域住民の願いやニーズに対応している。	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	事業展開③	公民館事業を展開する際、ねらいを明確にし、その充実が図られている。	3.0	3.2	3.2	3.1	3.0	3.0
	事業展開④	学級・講座をサークル化につなげる学習プログラムの開発に努めている。	2.5	2.7	2.8	2.7	2.8	2.7
	事業展開⑤	子育て・家庭教育について学習する機会の提供を図っている。	2.7	2.8	2.9	2.9	2.8	2.8
	連携・協力	関係団体及び諸機関等との協力体制を構築し、十分に連携が図られている。	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2
	情報の提供	公民館活動の情報を多様なツールを活用し地域住民に提供している。（HP、広報誌の工夫）	<u>2.8</u>	<u>3.1</u>	3.2	3.0	2.9	2.9
組織・運営・事務	組 織	職員相互の連絡調整がよくなされ、協力し合い、責任を持って職務を遂行している。	3.4	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3
	研 修	自ら資質・能力を高めるための研修の必要性を自覚し、研究・研修に意欲的に取り組んでいる。	3.0	2.9	2.8	2.7	2.8	2.8
	会 議	各種会合の企画・運営は適切に行われている。	3.5	3.3	3.3	3.2	3.3	3.2
	予 算	公民館運営のために職員間の共通認識のもとで、予算編成や執行にあたっている。	3.5	3.4	3.4	<u>3.1</u>	<u>3.4</u>	3.3
	施設・設備①	教育委員会との連携を密にし、施設・設備の適切な整備と計画的な物品等の購入に努めている。	3.4	3.2	3.3	3.1	3.3	3.1
	施設・設備②	住民がいつでも気軽に集まれるスペースの確保、ロビー等の各種展示の工夫に努めている。	3.4	3.2	3.3	3.1	<u>3.4</u>	3.2
	事 務	文書の収受・発送・保管は適切である。	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4
平 均			3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.1

公民館運営アンケートの「集計表」及び「評価平均値」から（考察）

1 全体として

全体の平均値は、これまでの過去5年間平均 3.2 ポイントで推移していましたが、今年度は 0.1 ポイント下がり 3.1 ポイントとなりました。項目ごとでは、18 項目中 11 項目が前年度を下回り、1 項目で上回りました。82.9%の方々が肯定的な回答（「4：当てはまる、3：やや当てはまる」）をされており、このことは新型コロナウイルス感染症という大きな試練を乗り越え、地域住民の多様なニーズに応え地域社会の発展に貢献しようとする前向きな意欲が表れたものと考えます。

2 目標について

数値的には、「目標①」「目標②」「計画」でそれぞれ 0.1 ポイント下降しました。また、「目標①」「目標③」「計画」で 90%以上の方が肯定的な回答をされているのに対し、「目標②」では肯定的な回答が 72.3%にとどまっていることから、地域住民への運営目標の周知に苦慮されていることが感じ取れます。ご存じの通り、公民館の運営目標を設定することは、館の活動の方向性を明確にし、効果的な運営を行う上で不可欠です。目標を設定し、目標達成度を定期的に評価し、必要に応じて目標や行動計画を修正することも必要です。今年度事業の振り返りや公民館運営審議会とそれに類する会議から、参加者や第三者による生きた意見を反映させ、より実態に即した運営目標としていただければと思います。

3 事業の実施について

「連携・協力」の項目において、前年度を 0.1 ポイント上回りました。経年比較で下回る項目がほとんどであった今年度において、唯一昨年度までを上回った項目です。また、89.2%の方が肯定的な回答をされており、他の項目に比べ高い値になっています。地域社会にとって、コロナ禍という危機的な状況下で地域住民の生活を支え、地域社会の持続可能性を確保するために、これまで以上に連携協力の重要性を認識された結果と考えています。「展開④」の項目では、肯定的な回答が 60.2%にとどまっており、すべての項目の中で最も低い値となっています。これはサークル化につなげる学習プログラムの開発の難しさを表しておりますが、講座受講生同士が自ら可能な活動を継続し、サークル化されたという話も伺いました。今後も、関係団体及び諸機関等との連携や協力はもとより、ICT 機器等の多様な情報ツールを活用し、情報提供に努めていただきますようお願いいたします。

4 組織・運営・事務について

例年、どの館でも比較的高い評価をしている項目でしたが、ほとんどの項目でポイントを下回っていることから、事業再開後、ソフト・ハードの両面において課題を再確認されたことが分かります。特に、「施設・設備①」「施設・設備②」の項目で 0.2 ポイント下回ったことは、新たな準備をする上で物価や燃料費高騰等の影響があったものと推察されます。「研修」においては、職員数の減少等による時間の確保が難しく思うように参加できない状況が続いているようです。オンライン研修等の普及も進んでいます。引き続き、「職員の資質・能力の向上」と「組織力の向上」にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

「職員研修」に関するアンケート結果

■対象

- ・ 公民館の職員 計83名

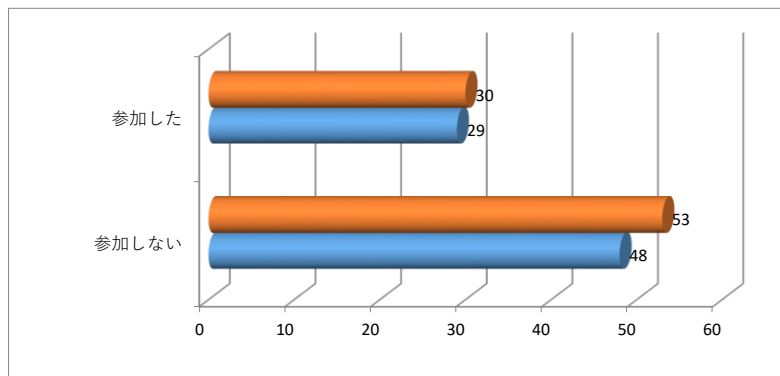
■方法

- ・ 質問紙記入（事前に質問紙を配付し、訪問時に回収）※設問により、無回答のある質問紙が複数枚あった。

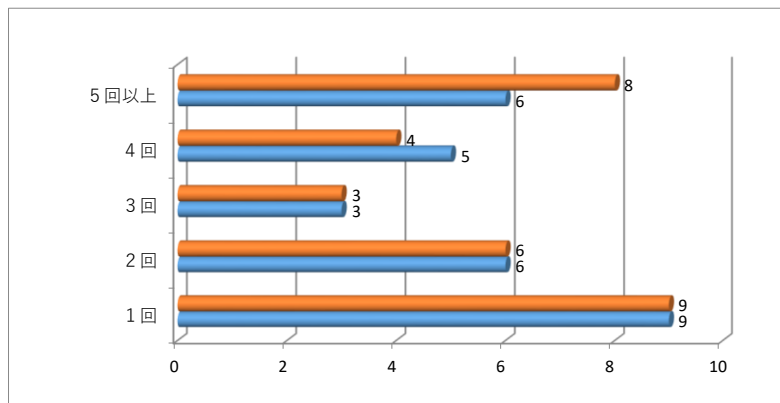
■属性

〔勤務形態〕		〔性別〕	〔勤務年数〕
・ 常 勤	54名	・ 男性	57名
・ 非常勤	29名	・ 女性	26名
		・ 1 年未満	23名
		・ 2 年以上～5 年未満	35名
		・ 5 年以上～1 0 年以下	16名
		・ 1 1 年以上	7名

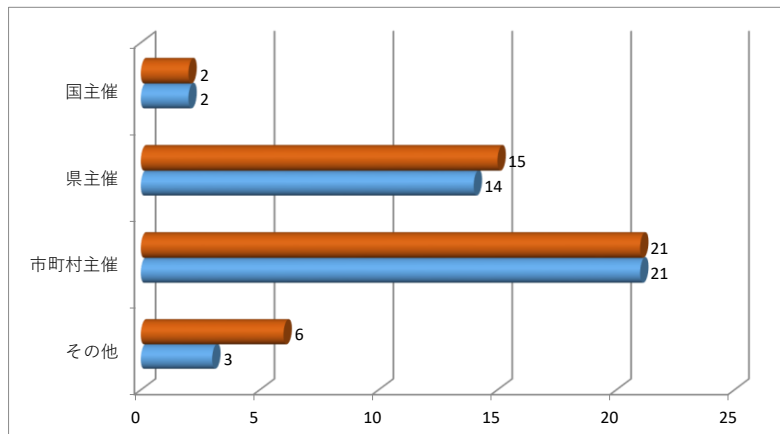
設問 1 昨年 1 年間で自分の職務に関わる研修に参加しましたか。



設問 2 何回研修に参加しましたか。（設問 1 で「参加した」と答えた人）



設問 3 参加した研修会の主催はどこですか。（設問 1 で「参加した」と答えた人）



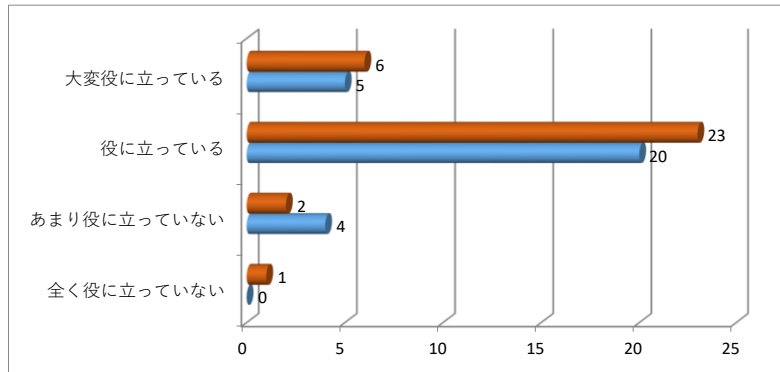
上段：R06

下段：R05

（複数回答）

- ・ 仙南公民館連絡協議会館長・職員合同研修（6）
- ・ まちづくり研修会（5）
- ・ 社会教育推進大会・協働教育研修会（4）
- ・ 協働教育コーディネーター研修会（3）
- ・ 自治組織職員研修会（3）
- ・ 公民館連絡協議会研修会（3）
- ・ 青少年担当者研修会（2）
- ・ 管内社会教育委員研修会（2）
- ・ 東北地区社会教育研究大会(2)
- ・ 社教主事研究協議会研修委員会
- ・ 文化財担当者研修会
- ・ 家庭教育担当者研修会
- ・ 仙南子連指導者研修会
- ・ 部活動地域移行研修会
- ・ 社会教育主事研究協議会
- ・ その他

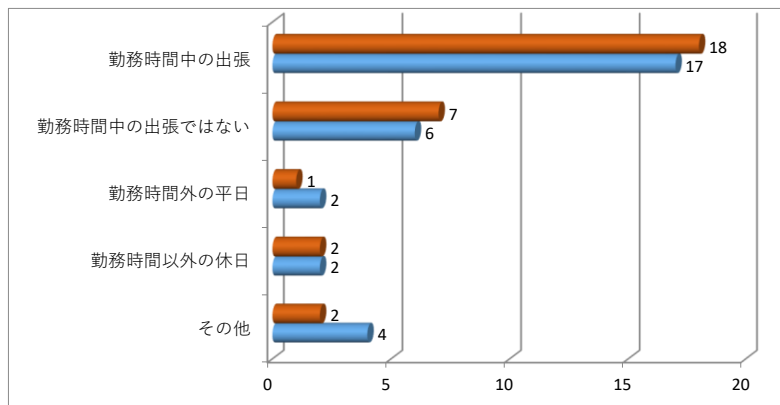
設問4 参加した研修は役に立っていますか。（設問1で「参加した」と答えた人）



上段：R06

下段：R05

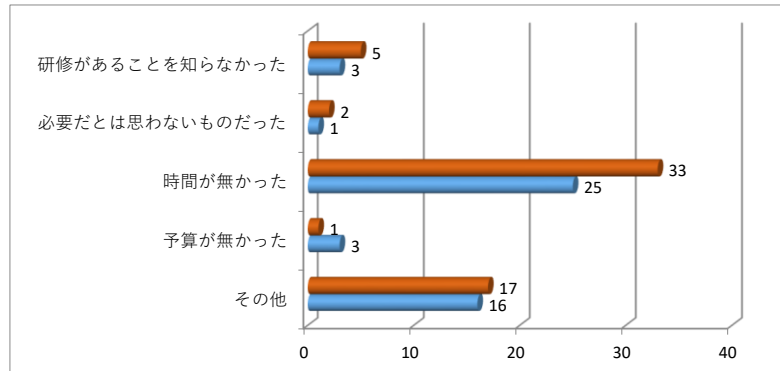
設問5 参加した研修には、主にどのような勤務態様で参加しましたか。（設問1で「参加した」と答えた人）



上段：R06

下段：R05

設問6 研修に参加しなかった主な理由は何ですか。（設問1で「参加しなかった」と答えた人）



上段：R06

下段：R05

（その他）

- ・公民館勤務になって期間が短い（3
- ・研修日に所用
- ・機会がなかった
- ・他の部署で勤務
- ・他の職員が参加

設問7 どのような研修があれば参加したいですか。

- ・分かりやすく実用的な研修
- ・文化財の保存・管理（木製品）
- ・地域活性化の先進地視察
- ・他町村との交流研修
- ・生成A I 関連研修会
- ・事業プログラムの立案など
- ・魅力的な講座の作り方
- ・生涯学習についての研修
- ・職場・行政・地域の方々とのコミュニケーションの取り方
- ・マナー化を整理し再編する方法を学ぶ研修会
- ・施設管理のポイントや気を付けること
- ・事業を開催するにあたり、内容や講師について毎年悩むので、参考になるような内容や先生方の紹介をしてもらえる研修
- ・公文書の書き方や、地方自治法
- ・地区において0（ゼロ）からのスタート
- ・鹿児島県鹿屋市の通称「やねだん」豊重さんの話
- ・スキルが身につく研修
- ・生涯スポーツに関する研修
- ・事業展開の参考になるような、軽運動や脳トレなどの実技研修

令和6年度大河原教育事務所管内地域連携担当研修会

- 1 目 的 地域学校協働活動を推進するため、担当者として期待される役割についての理解を深めると共に、各校での取組等の情報を共有し、事業関係者の資質の向上と地域学校協働活動の一層の推進を図る。
- 2 主 催 宮城県大河原教育事務所
- 3 日 時 令和6年6月4日（火） 午後2時から午後4時30分まで
（受付：午後1時40分から）
- 4 会 場 宮城県大河原合同庁舎 大会議室
住所：大河原町字南129-1 TEL：0224-53-3111（内567）
- 5 参加対象 管内市町小・中学校地域連携担当教員及び関係する教員
各市町教育委員会地域学校協働活動担当者
各市町教育委員会地域学校協働活動コーディネーター・指導員 等
- 6 日程・内容
 - （1）開会行事
○あいさつ 宮城県大河原教育事務所 所長
 - （2）研 修
○第1部【講話(パネルディスカッション)】
「地域とより良く連携するために、担当として何をすべきか」
講師 白石市立白石南中学校 教頭 中出 政美 氏
七ヶ宿町立七ヶ宿小学校 教頭 伊藤 克巳 氏
川崎町立富岡中学校 教頭 菊地 英樹 氏
○第2部【事例紹介(グループワーク)】
「私の学校では、こんな活動をしています！」
～「令和6年度小学校・中学校紹介」資料を基にした情報共有～
 - （3）諸 連 絡 地域学校協働活動市町訪問について
 - （4）閉会行事
○アンケート記入(Google フォームにて)
○あいさつ 宮城県大河原教育事務所 次長（社会教育主事）
- 7 参加申込 参加希望者は、様式1「参加申込書」を、令和6年5月15日（水）まで各市町教育委員会生涯学習主管課（地域学校協働活動担当）に申し込みください。
各市町担当者は、希望者を取りまとめの上、様式2により、令和6年5月22日（水）までに大河原教育事務所教育学事班生涯学習担当あてメールにて御連絡願います。
- 8 そ の 他
 - ・会場レイアウトの都合上、机は配置いたしませんので、必要に応じてクリップボード等を御準備ください。
 - ・「第2部」の事例紹介では、各校に作成いただく「令和6年度小学校・中学校紹介」を使用いたします。事務局にて準備いたしますので、受付にてお受け取りください。

地域連携担当研修会

6月4日（火）、大河原教育事務所を会場に地域連携担当研修会を開催しました。今年度の研修会は2部構成で行いました。

前半の講話では、白石市立白石南中学校 教頭 中出 政美 氏、七ヶ宿町立七ヶ宿小学校 教頭 伊藤 克巳 氏、川崎町立富岡中学校 教頭 菊地 英樹 氏の3人の教頭先生方を講師にお迎えし、「地域とより良く連携するために、担当として何をすべきか」と題してパネルディスカッションを行いました。講師の皆様は、学校での地域連携担当教員として、自治法派遣社会教育主事(行政職員)として、教頭(管理職)としてという立場を経験されている皆様です。それぞれの立場から見える連携・協働に欠かせない視点について、楽しく分かりやすくお話いただきました。

後半の事例紹介では、「私の学校では、こんな活動をしています」と題してグループワークを行いました。校種や立場、自治体が同じ方同士、異なる参加者同士とグループ編成を変えながら、各校で取り組まれている活動の紹介を通して、これからの地域学校協働活動を充実させるためにどのようなことが考えられるか、活発な意見交換が行われました。



講話(パネルディスカッション)「地域とより良く連携するために、担当として何をすべきか」 (参加者の声)

- ・「あるもの探し」「あるもの生かし」という言葉が印象に残りました。地域の中にある良さをしっかりと見つめることで、地域の方と繋がり、子供たちの地域への愛着を深めることができると感じました。
- ・地域連携担当者として必要な資質・能力や、今後身に付けていかななくてはならないもの、大切にしていかななくてはならないものが明確になりました。
- ・実際に社会教育主事をしていた頃の貴重な経験を話していただき、これからの地域連携を担当していくなかで、心がけていこうと思えることがたくさんありました。特に地域の方や行政の方といろいろ話をしてみるところから始めていきたいと思います。
- ・今までの実践を聞くことができて、参考になりました。ひと、もの、ことを大切にし、コミュニケーション力と行動力を身につけたいと思いました。
- ・日常にある魅力を発見するという視点から地域に目を向けることで、地域(保護者)と学校の資源を有効活用できると感じました。先生方のお話から、まずは、教職員が人と関わろうとする気持ちや、地域の人々に思いを馳せることができる土壌づくりを、地域連携担当が率先して行っていくことが大切であると実感することができました。

事例紹介(グループワーク)「私の学校では、こんな活動をしています！」 (参加者の声)

- ・地域性や規模の違う学校の話はとても興味深かったです。それぞれの悩みがあることが分かりました。
- ・どんなところに困っているのか、意見を聞くことができました。また、どのように学校へ働きかけをしているのか、お話を聞いてとても良い時間になりました。
- ・それぞれの学校でしている様々な取組を知ることができ、良い機会になりました。地域によって本当に様々な取組があり、どの取組も魅力的だと感じました。
- ・市町の実態や地域の特色に合わせて、様々な取組がなされているのが分かりました。また、そこには、様々な関係機関、人々とのつながり、歴史などを感じることができました。
- ・それぞれの町や学校で特色ある活動をしており、連携するうえでの大変さや課題はそれぞれあるのだと感じました。その上で、自分の地域や学校では、これができそうと思えるものや共感できる部分がありました。
- ・自分の学校で取り入れられることを探りながら、お話を聞くことができました。他校の独自の在り方に刺激を受けました。

研修会の感想 (参加者の声)

- ・どの活動をするにも、子供にとっての学びとは何かについて、共に考え、学校と地域双方が喜びを共有できるような仕組みづくりを、積極的に行っていきたいと思います。〔小・主幹教諭、教諭〕
- ・ないものを考えるのではなく、あるものを見つける気持ちで行動していこうと思います。〔中・主幹教諭、教諭〕
- ・先生方と行政職員一緒にの研修で大変参考になり面白かったです。研修可能な限り学校へ足を運んでみたいと思いました。〔市町職員〕
- ・大変勉強になる研修会に参加させていただきました。地域・学校とのコミュニケーションを密に取り合うことの大切さを学ばせていただきました。今後の協働教育活動の参考にさせていただきます。〔コーディネーター〕
- ・アイスブレイクやグループメンバーを探す活動、様々な視点の助言など、講話やグループワーク以外の部分でも勉強になりました。〔地域連携担当教員〕



大河原管内公民館等一覧

			公民館等名	郵便番号	所在地	電話番号	F A X
1	白石	1	白石市中央公民館	989-0206	白石市字寺屋敷 2 5 - 6	0224-26-2453	24-5377
2		2	白石市越河公民館	989-0111	白石市越河五賀字南原 2 - 1	0224-28-2101	28-2561
3		3	白石市斎川公民館	989-0216	白石市斎川字新町尻 3	0224-25-2701	25-6128
4		4	白石市大平公民館	989-0216	白石市大平中目字西田 7	0224-25-2338	25-2338
5		5	白石市大鷹沢公民館	989-0213	白石市大鷹沢三沢字 5 - 4 8	0224-25-2711	25-6447
6		6	白石市福岡公民館	989-0232	白石市福岡長袋字陣場ヶ丘 1 2 - 2	0224-25-2249	25-2249
7		7	白石市深谷公民館	989-0731	白石市福岡深谷字南沖 2 1	0224-24-4540	24-4590
8		8	白石市小原公民館	989-0233	白石市小原字中北前田 3 - 2	0224-29-2031	29-2900
9		9	白石市白川公民館	989-1102	白石市白川津田字内堀 6 - 1	0224-27-2101	27-2517
10	角田	1	角田自治センター	981-1505	角田市角田字牛館 1 9 - 5	0224-63-2224	63-5559
11		2	横倉自治センター	981-1512	角田市横倉字杉の堂 4 0	0224-62-2314	63-5357
12		3	小田自治センター	981-1514	角田市小田字福田 8 0	0224-62-4292	62-4292
13		4	枝野自治センター	981-1504	角田市島田字光畑 5 7 - 1	0224-63-2141	63-5358
14		5	藤尾自治センター	981-1502	角田市尾山字五反田 1 9 8	0224-63-2131	61-1055
15		6	東根自治センター	981-1533	角田市平貫字土浮 1 0 2	0224-69-2111	69-2410
16		7	桜自治センター	981-1522	角田市佐倉字裏一番 1 5 5	0224-63-2142	63-5360
17		8	北郷自治センター	981-1524	角田市岡字阿弥陀入 3 3 - 1	0224-68-2111	67-1055
18		9	西根自治センター	981-1516	角田市高倉字本町 1 5	0224-65-2111	67-3001
19	蔵王	1	蔵王町公民館	989-0821	蔵王町大字円田字西浦 5	0224-33-2018	33-2019
20		2	蔵王町宮地区公民館	989-0701	蔵王町宮字町 2 1	0224-32-2311	32-2341
21		3	蔵王町平沢地区公民館	989-0831	蔵王町大字平沢字内屋敷 1 4 - 1	0224-33-2220	33-2220
22		4	蔵王町遠刈田地区公民館	989-0916	蔵王町遠刈田温泉字北山 1 8 - 1	0224-34-2331	34-2376
23		5	蔵王町永野地区公民館	989-0821	蔵王町大字円田字西浦 5	0224-33-2018	33-2019
24		6	蔵王町円田地区公民館	989-0821	蔵王町大字円田字堀の内 4	0224-33-2332	33-2407
25	七ヶ宿	1	七ヶ宿町公民館	989-0512	七ヶ宿町字関 1 2 6	0224-37-2195	37-2203
26	大河原	1	大河原町中央公民館	989-1241	大河原町字町 1 9 6	0224-53-4050	53-4051
27		2	大河原町金ヶ瀬公民館	989-1224	大河原町金ヶ瀬字原 8 8	0224-52-6635	52-6736
28	村田	1	村田町中央公民館	989-1305	村田町大字村田字西田 2 8	0224-83-2023	83-3385
29		2	村田町沼辺地区公民館	989-1321	村田町大字沼辺字学校前 6 2	0224-52-1644	52-6444
30		3	村田町小泉地区公民館	989-1302	村田町大字小泉字古館 1 - 2		
31		4	村田町姥ヶ懐地区公民館	989-1302	村田町大字小泉字朮石 2 9		
32		5	村田町菅生地区公民館	989-1301	村田町大字菅生字宮根 5 9	0224-83-2301	83-5778
33		6	村田町西足立地区公民館	989-1311	村田町大字足立字明神 9 3		
34		7	村田町東足立地区公民館	989-1311	村田町大字足立字岫 1 3		
35	柴田	1	船岡生涯学習センター	989-1612	柴田町大字中名生字西宮前 4 9	0224-59-2520	59-2580
36		2	槻木生涯学習センター	989-1752	柴田町槻木下町 3 - 1 - 6 0	0224-56-1997	56-1997
37		3	船迫生涯学習センター	989-1622	柴田町西船迫 3 - 3 - 1 0 4	0224-57-2011	57-2173
38		4	船岡公民館	989-1731	柴田町船岡東 1 - 2 - 6 5	0224-55-2023	54-1420
39		5	船迫公民館	989-1731	柴田町東船迫 1 - 8 - 1	0224-56-5128	56-5135
40		6	西住公民館	989-1606	柴田町大字船岡字大住町 1 3 - 1	0224-52-4101	52-4101
41	川崎	1	川崎町公民館	989-1501	川崎町大字前川字裏丁 1 7 5 - 2	0224-84-2111	85-1026
42	丸森	1	丸森まちづくりセンター	981-2152	丸森町字鳥屋 1 2 0	0224-72-1683	72-4201
43		2	金山まちづくりセンター	981-2402	丸森町金山字下前川原 1 7	0224-78-1121	73-7006
44		3	筆甫まちづくりセンター	981-2201	丸森町筆甫字和田 8 0 - 2	0224-76-2111	73-6008
45		4	大内まちづくりセンター	981-2501	丸森町大内字横手 8 2 - 1	0224-79-2004	73-3008
46		5	小斎まちづくりセンター	981-2401	丸森町小斎字山崎 6 3	0224-78-1111	73-7007
47		6	館矢間まちづくりセンター	981-2102	丸森町館矢間館山字大門 1 4 8 - 1	0224-72-2120	73-1036
48		7	大張まちづくりセンター	981-2301	丸森町大張大蔵字川前 3 9 - 1	0224-75-2124	73-5008
49		8	耕野まちづくりセンター	981-2303	丸森町耕野字小屋館 7 - 4	0224-75-2134	73-5007